

人権作文で受賞 人種差別のない世界を願う

まえだひなの
前田妃那乃さん

作文「人種差別のない世界へ」で、第39回全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会で優秀賞を受賞した、東郷中学校2年生の前田妃那乃さん。

今回は、前田さんにテーマを選んだ経緯や想い、考えなどを伺いました。

外国人に対する偏見

「中国人はマナーが良くない」と話しているのを耳にしたときに、「中国人全員マナーが良くないわけではないはず」と思った前田さん。また、街中で日本人が外国人を避けているように感じたこともありました。

前田さんは「外国人はマナーが悪いと思いついて入っている人がいる。マナーや礼儀の良い外国人がたくさんいることをみんなに知ってもらいたい」と思い、人権作文で外国人の人権について書くことにしたそうです。

ボランティア活動で知った外国人の礼儀正しさ

前田さんは小学2年生から、母親がボランティアとして参加している日本語教室で、自分も外国人に日本語を教えるボランティアをしています。

ボランティアを始めたばかりの頃は「私も外国人に対して身構えていました」と打ち明けてくれま

した。しかし、前田さんに対して、年上の受講生が敬語を使い、自分のことを「先生」と呼んで、敬いの気持ちをもって接してくれる外国人の礼儀正しい接し方や日本語を熱心に学ぶ姿に触れるうちに、次第に彼らに対して身構えることはなくなったそうです。

作文が人権を深く考えるきっかけに

また、前田さんは作文を書くにあたって外国人の人権について調べると、見た目が日本人と違ってしまうだけでいじめにあっている外国人がいること、低賃金で働かされる外国人がいることなどを知りました。「そんな彼らのことを思うと、とてもつらく、苦しくなりました」と漏らします。

人権作文を書くことで、人権のことを知り、深く考えるきっかけとなったと話します。

人種差別のない世界になるには

外国人に対する偏見や人種差別

をなくすためにはどうすればよいと思うか前田さんに尋ねると、「まずは外国人と話してみたいです。文化や見た目の違いなどから身構えてしまいかもかもしれませんが、話すうちに思い込みが気づき、身構えることもなくなると思いますが」と教えてくれました。

最後に、前田さんに将来どんな人になりたいか伺うと、「医療が発展していない国の支援に携わり、海外で人の役に立ちたい」とまっすぐな目で話してくれました。

あなたも、周りにいる外国人と話してみませんか。考え方が変わり、生活がより豊かになるかもしれません。



笑顔で賞状を手にする前田さん



日本語教室で開催された料理教室